1916年に創業し、一貫して銑鉄鋳物製造を中心に事業活動を行ってきた虹技株式会社。同社は、2016年に創業100周年を迎え、製造業の基本となる現場力を強化し、品質向上と飽くなきコストダウンに取り組んできた。その経営姿勢は情報セキュリティ対策にも適応され、これまではコストを優先しロシア製のウイルス対策ソフトを導入していた。しかし、セキュリティ対策を見直す中でパートナーからの提案を高く評価してSophosのIntercept Xを導入した。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE

KOGI C&E GROUP

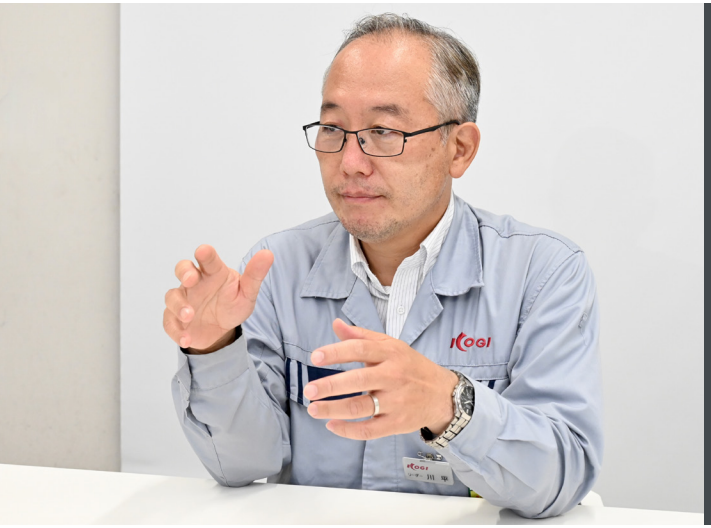
虹技株式会社（KOGI CORPORATION）

本　　社　〒671-1132 兵庫県姫路市大津区勘兵衛町4丁目1

社 員 数　739名（連）　450名（単）

WEBサイト　https://www.kogi.co.jp/

ソフォスソリューションズ　Intercept X



ソフォスはクラウドさえあれば最新の状態を維持できるので海外に行く社員の安心にもつながりました。

虹技株式会社
IT推進部 システム保守グループ リーダー
川平 靖博氏

鋳物・ロール関連事業、機械・環境関連事業を主な事業としている虹技株式会社。2021年に旧情報システムグループをIT推進部へと発展させ、社内のIT活用を加速させていくと同時に、セキュリティ対策の強化にも取り組んできた。IT推進部で、セキュリティ対策を担うシステム保守グループでは、かねてから課題となっていた旧世代のウイルス対策ソフトが抱えていた課題を解決するために、SophosのIntercept Xを導入し誤検知の激減と海外業務での安全性を確保した。

ビジネスチャレンジ

「誤検知の頻発が運用負荷と業務の停止につながっていた」

虹技株式会社 IT推進部 部長
赤藤 公俊氏

虹技株式会社のIT全般を統括するIT推進部の赤藤公俊部長は、その基本姿勢を次のように話す。

「当社の情報セキュリティ対策は、世の中で一般的に行われているレベルをクリアするために、コストパフォーマンスに優れた製品を導入してきました。しかし、数年前からエンドポイント対策に課題を抱えていました。」

同社が抱えていた課題について、IT推進部で情報セキュリティ対策を担ってきたシステム保守グループのリーダー、川平　靖博氏が振り返る。

「以前に導入していたロシア製のエンドポイント対策ソフトは、価格は安かったので

すが誤検知が多く、疑わしいグレーなアプリやファイルは、すべて検知して止めてしまう、という問題を抱えていました。誤検知を解除するためには、そのファイルをロシアの本社に送り、ウイルスではないと判断してもらう必要がありました。その対応には、早くても一日はかかっていました。中には、日本で有名なソフトであっても、誤検知の対象になりファイルや情報を送っても解除してもらえない、というトラブルもありました。その際には、こちらでホワイトリストを登録し直さなければならず、システム保守グループにとっては、運用負荷になっていました。」

設計や製造の現場でCADソフトを多く利用する同社では、エンドポイント対策ソフトによってソフトが使えなくなってしまうと、業務にも大きな支障をきたす。こうした課題を解決するために、2021年から新たな情報セキュリティ対策への更新を検討しはじめた。

テクノロジーソリューション

「運用の実情に合わせたトライアルの展開と高いコストパフォーマンスを評価して導入」

新たなセキュリティ対策への取り組みについて、川平氏は「以前から、エンドポイント対策ソフトの入れ替えに対する提案はありました。しかし、その多くは価格と検証方法の両面で、当社の要望に合うものではありませんでした。標準的なトライアルでは、限られたライセンス数と期間で検証しなければなりません。それでは、情報部門の一部だけで試すことになります。そうではなく、製造現場も含めた全社的な規模での検証に対応したライセンス数と期間の提供を希望していました」と検証における課題について説明する。

こうした要望に応えるために、SophosのRising Star of the Year Award 2022を受賞したゴールドパートナーの株式会社ハイパーは、川平氏の要望するIntercept Xの検証環境を整えた。その結果「当社で希望する部署で、必要とする期間の検証を実施できました。特に、製造現場では入念に検証しました。そして、Intercept Xに入れ替えても業務に支障なく、これまで以上に安全性が確保されると確認できました」と川平氏は振り返る。また、赤藤氏も「コストに関しても、ハイパーが当社の希望にそったライセンス価格を提示してくれたので、これならば入れ替えても大丈夫だと判断しました」と評価する。

技術的な検証をクリアし、価格の面でも納得できるライセンス体系となり、同社のIT推進部では2022年2月にIntercept Xの採用を決定した。

株式会社ハイパー
平氏

導入の成果

「円滑な更新と高い信頼性に加え
海外出張にも安全性を確保」

虹技株式会社のIntercept Xは、2022年3月から本格的な更新をスタートした。古いエンドポイント対策ソフトからの入れ替えについて、川平氏は「Intercept Xは市販

のインストーラーを活用して、約200台のPCは自動インストールで賄えました。手間もかかりませんでした。むしろ、旧ソフトのアンインストールに手間取りました。旧ソフトはオンプレミスのサーバーと連携していたので、そことつながっていないとアンインストールできない仕様だったので、削除に時間がかかりました」と話す。オンプレミスで運用していた旧ソフトには、もう一つ課題があった。川平氏は「社外にあるPCは、パターンファイルが更新できなくなるので、海外に出張する社員には、持ち出すPCに別のウイルス対策ソフトを導入していました。そうした不便さも、クラウド対応のIntercept Xへ切り替えたことで、一切不要になりました」と評し「現在は、何かあればメールですぐに知らせてくれるので、管理画面のSophos Centralも1日に2～3回ほど閲覧する程度で済んでいます。運用負荷に関しては、大幅に軽減されて管理面での手間も1～2割は楽になりました」と補足する。

さらに、赤藤氏も「IT推進部としては、作業の軽減に加えて、Intercept Xで得られる安心感を高く評価しています」と語る。

今後の展望

「Synchronized Securityを実現できる次世代型ファイアウォールのSophos Firewallの導入も検討」

今後に向けた取り組みについて、川平氏は「直近では、100%のPCにIntercept Xを導入していきます。持ち出されたままのPCや、離れた事業所にあるPCは、まだ古いソフトのままなので、更新を加速していきます。また、PCだけではなくスマートフォンやタブレットへの対応も考えています。それに加えて、Intercept Xの法人ライセンスを契約すると、社員がSophos Homeを無償で利用できると知ったので、個人用のデバイスも保護してもらえるように、通知していきます」と計画を話す。

また、導入をサポートしてきた株式会社ハイパーの平氏は「虹技株式会社では、従来型のfirewallを使われているので、SophosのUTMを提案していきます。Intercept Xと連携してSynchronized Securityを実現できれば、川平様のシステム保守グループの業務もさらに軽減されると思います」と話す。川平氏も「確かに、いま利用している従来型のfirewallは、動作が重いので必要最低限の機能だけで運用しています。次の更新時期も近いので、ハイパーからの提案を検討していきたいと思います。それに加えて、Intercept Xのポリシーも調整して、USBメモリなどの携帯用ストレージの安全性を強化するなど、情報セキュリティ対策も強化していきます。また、ソフォスのサポート窓口は、とてもレスポンスが早くて質問するとすぐに返ってくるので、利用する側にとっての安心感につながるので、非常にありがたいです」とソフォスの対応にも期待を寄せる。

SOPHOS